

2011年度 決算説明会
主な質疑応答

- Q1 2012年度のデジタルカメラやフラットパネルディスプレイ材料の販売動向は？
- A1 デジタルカメラの販売台数は、2011年度の実績が1,170万台でしたが、2012年度は1,230万台を目標としています。数量はもちろん伸ばしますが、「Xシリーズ」を中心とした高付加価値機種の販売に重点を置きます。
フラットパネルディスプレイ材料は、液晶テレビの需要が弱いですが、現在の厳しい市況が良くなれば、売上也伸びてくると考えます。
- Q2 2011年度決算のバランスシートでは在庫が増えていますが、なぜでしょうか？また、在庫は2012年度には増えるのでしょうか？また売掛債権も増えていますが、どういった内容でしょうか？
- A2 在庫が増えているのは、2012年度で拡販するための各事業部の在庫の積み上げです。今後払い出すので、減る見込みです。また売掛債権の増加については、特にメディカル系の債権は期末に売りが集中する傾向にあり、特に今年は顕著だったことが理由です。
- Q3 2012年度のドキュメントソリューションの売上について、海外・国内・輸出のうち、どのあたりが伸びそうでしょうか？
- A3 ドキュメントソリューションは、前年比で5%程度の売上成長を考えております。日本国内も伸びますが、中国を中心とした新興国では、2桁以上の成長が可能と考えています。
- Q4 2012年度で見込んでいるフリーキャッシュフローの水準と、資金の使用用途を教えてください。
- A4 2012年度は純利益で650億円を予想しており、フリーキャッシュフローはポジティブになると予想しています。投資については、設備投資・減価償却費が2011年度よりも若干増える予定です。M&Aについては、500億円から1,000億円の幅で予算枠を確保していますが、予算枠を全部使うということではなく、必要性をよく検討して行います。ヘルスケア分野への投資がメインとなる予定です。

以上